

## 1. 計画全体の評価

評価指標 58 項目について前期計画策定時の値と最新値について比較し、「目標達成」「改善」「やや改善」「不変」「悪化」の 5 段階で評価しました。また、改善率の算出ができない指標については、達成、未達成で評価を行いました。目標を達成した項目は 11 項目（19.0%）、目標は達成しなかったものの、改善した項目は 17 項目（29.3%）であり、全評価指標のうち 5 割弱に改善がみられました。当計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている可能性も考えられます。

令和 6 年 2 月 27 日時点

評価区分	評価基準 <sup>※1</sup>	該当項目数 (割合)	分野別					
			栄養	運動	休養	喫煙 飲酒	歯 口腔	健康 管理
目標達成	改善率 100% 以上	<b>11 項目 (19.0%)</b>	0	2	0	1	4	4
改善	改善率 50%以上 100%未満	<b>7 項目 (12.1%)</b>	0	0	1 <sup>※4</sup>	3	2	2 <sup>※4</sup>
やや改善	改善率 10%以上 50%未満	<b>10 項目 (17.2%)</b>	2	2	1	1	1	3
不変	改善率-10%以上 10%未満	<b>4 項目 (6.9%)</b>	1	2	0	1	0	0
悪化	改善率-10%未満	<b>21 項目 (36.2%)</b>	10 <sup>※5</sup>	4	2	3	0	3 <sup>※5</sup>
達成 <sup>※2</sup>	目標を達成	<b>0 項目 (0.0%)</b>	0	0	0	0	0	0
未達成 <sup>※2</sup>	目標を達成 できなかった	<b>4 項目 (6.9%)</b>	0	1	0	0	0	3
評価せず <sup>※3</sup>	参考値	<b>1 項目 (1.7%)</b>	0	0		0	0	0
合計		<b>58 項目</b>	13	11	5	9	7	15

※1：改善率算出方法  $(最新値 - 現状値) \div (目標値 - 現状値) \times 100$

最新値と第 3 次計画策定時の現状値の差を目標値と現状値の差で除す。なお、最新値は評価項目によって調査年が異なる。

※2：改善率の算出ができない指標については、達成、未達成で評価を行った。

※3：現状値策定時の算出方法と異なるため参考値とする。

※4：指標「低体重の割合 65 歳以上」をそれぞれに計上。

※5：指標「就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合」をそれぞれに計上。

## 2. 分野別評価

### (1) 栄養・食生活

#### 【市民の行動目標】

- 減塩及び適切な量・質を考えた食事をしよう
- 適正体重を維持しよう

#### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	望ましい食習慣の形成	・偏食をしない ・朝食を毎日食べる
成人期	生活習慣病の発症に注意	・主食・主菜・副菜のそろった食事をとる ・適正体重の維持
高齢期	生活習慣病の重症化に注意 低栄養に注意	・多様な食品を食べる ・たんぱく質を意識して食べる

#### 【行政の取組】

- 飲食店や販売店などと連携した「ちよいしおプロジェクト」を推進しました。
- 取組に参加する関係団体が増加するよう、連携体制の構築を推進しました。
- 減塩、野菜摂取に配慮したバランスのとれた食事の重要性について、各世代対象の事業等において普及啓発を行いました。
- フレイル予防として、低栄養に注意することが重要です。低栄養状態を予防、改善し、適切な栄養状態を維持できるよう多様な食品、たんぱく質の摂取について普及啓発を行いました。

【指標・結果】 ※青：目標値到達、黄色：目標値未達だが改善傾向、赤：第3次計画策定時より悪化

栄養・食生活		出典	第3次 策定時	目標値 (2023年度)	最新値※	評価	確定
適切な量と質の食事をとる人の増加							
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合		(1)	68.8%	80%以上	72.9%	やや改善	○
減塩を意識し、できていると思う人の割合 (できている、だいたいできている)		(1)	48.2%	60%以上	44.2%	悪化	○
野菜の摂取を意識し、できていると思う人の割合 (できている、だいたいできている)		(1)	56.4%	70%以上	56.0%	不変	○
朝食を欠食する人の割合(20歳代、30歳代)		(1)	18.6%	15%以下	23.5%	悪化	○
適正体重を維持している人の増加							
肥満者の割合 (BMI25以上)	20～60歳代男性	(1)	27.3%	15%以下	25.7%	やや改善	○
	40～60歳代女性	(1)	12.2%	10%以下	13.7%	悪化	○
低体重者の割合	20歳代女性(BMI18.5以下)	(1)	10.0%	15%以下	20.8%	悪化	○
	65歳以上(BMI20以下)	(1)	22.4%	22%以下	23.2%	悪化	○
肥満傾向児の割合	幼児(肥満度15%以上)	(2)	4.44%	3%以下	5.3%	悪化	
	小学生(肥満度20%以上)	(3)	6.73%	5%以下	9.2%	悪化	
	中学生(肥満度20%以上)	(3)	7.27%	6%以下	9.5%	悪化	
健康な食習慣を有する子どもの増加							
朝食をほぼ毎日食べる子どもの割合	小学生(5、6年生)	(4)	93.9%	100%	91.4%	悪化	
	中学生	(4)	91.6%	100%	88.4%	悪化	

- (1) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査  
 (2) 令和4年(2022年)度新潟県小児肥満等発育調査  
 (3) 令和4年(2022年)新潟市学校保健統計  
 (4) 令和4年(2022年)新潟市生活・学習意識調査

### 【課題の方向性】

#### ● 市民アンケート調査結果より

- 減塩・野菜の摂取を意識できていると思う人の割合が減少
- 20・30歳代で「朝食を欠食する」割合が増加
- 適正体重を維持できていない人の割合が増加(特に女性の肥満者・低体重者の割合が増加)

## (2) 身体活動・運動

### 【市民の行動目標】

- 日常生活で体を動かそう
- 体を動かす楽しさを知ろう

### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	体を動かす楽しさを体験する	・体を動かす機会を増やす ・自分に合った運動を見つける
成人期	体を動かす習慣をつける	・毎日 60 分、体を動かす ・楽しく続けられる運動を見つける
高齢期	フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアを予防する	・自分の体の状態を知り、身体機能を維持する ・地域の活動に積極的に参加する

### 【行政の取組】

- ウォーキングイベントやまち歩きイベント、体育施設・公民館等での運動教室などを開催し、子どもから大人まで楽しみながら体を動かす機会を提供しました。
- 企業等の健康経営の支援を通して、身体活動量を増やす取組を行いました。
- 高齢者を対象とする介護予防事業について、周知に取り組み、活動内容の充実に努めました。また、高齢者の社会参加を促進することでフレイル予防等を推進しました。
- 体を動かすことの必要性や日常生活の活動量を増やす工夫、身体機能のチェック方法などの情報を発信しました。
- 運動普及推進委員、スポーツ推進委員などの育成・支援を行い、地域で健康づくりを推進するリーダーを育成しました。
- 公共交通、公園や歩道の整備など歩きやすいまちづくりを進めました。

【指標・結果】

身体活動・運動		出典	第3次策定時	目標値 (2023年度)	最新値	評価	確定
日常生活の中で体を動かす人の増加							
1日60分くらい体を動かす生活を実践している人の割合	男性	(1)	36.5%	40%以上	50.4%	目標達成	○
	女性	(1)	37.2%	40%以上	55.1%	目標達成	○
運動習慣を有する人の割合	男性	(1)	28.1%	40%以上	31.9%	やや改善	○
	女性	(1)	19.8%	40%以上	23.0%	やや改善	○
日常生活における歩数	男性(20～64歳)	(2)	7,890歩	9,000歩以上	7,250歩	悪化	○
	男性(65～74歳)	(2)	6,231歩	7,000歩以上	6,152歩	悪化	○
	女性(20～64歳)	(2)	7,703歩	8,500歩以上	6,697歩	悪化	○
	女性(65～74歳)	(2)	6,437歩	現状値以上	6,330歩	未達成	○
積極的に体を動かす子どもの増加							
体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしている児童・生徒の割合	小学生(5・6年生)	(3)	85.9%	90%以上	82.0%	悪化	
	中学生	(3)	78.9%	80%以上	78.9%	不変	
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している人の増加							
ロコモティブシンドロームの認知度	(1)	22.5%	50%以上	24.0%	不変	○	

- (1) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査  
 (2) 令和5年(2023年)度新潟市歩数調査  
 (3) 令和4(2022年)平成29年度新潟市生活・学習意識調査

【課題の方向性】

● 市民アンケート調査結果より

- 体を動かす生活を実践している/運動を習慣化している人の割合は増えているが、日常生活における歩数は増えていない

### (3) 休養・こころ

#### 【市民の行動目標】

- ストレスを上手にコントロールしよう
- 豊かなコミュニケーションを築こう
- 十分に休養をとろう

#### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	適切な睡眠時間の確保と身近な人との相談・交流	・早寝早起きを心がけ、適切な睡眠時間を確保する ・悩みを周囲に相談する ・パソコン、携帯電話、ゲーム機などの利用時間を適切にする
成人期	働き盛り世代のメンタルヘルスとワーク・ライフ・バランスの推進	・ストレスを解消し、仕事と生活のバランスを保つ ・職場、相談窓口等で悩みを相談する ・適切な睡眠時間と質の良い睡眠を確保する
高齢期	役割や生きがいによる心の健康づくり	・地域の活動に積極的に参加する ・積極的に外出し、役割や生きがいを持っていきいきと生活する

#### 【行政の取組】

- こころの健康を保つための適切な睡眠、休養、ストレスとの付き合い方について、情報発信と普及啓発を行いました。
- 子どもの頃からの規則正しい生活習慣の確立について、母子保健、学校保健などの関係機関と連携した健康教育や相談を行いました。
- こころの健康について、こころの健康センターを中心とした専門相談や、身近な地域で気軽に相談できる体制を強化しました。
- 若年層から高齢層までの自殺予防について、庁内関係部署、関係機関・団体とともに取組を推進しました。また、働き盛り世代のメンタルヘルスについて、職域保健と連携しながら健康教育や健康相談を行いました。
- 高齢者がボランティア活動などを通じて地域貢献に取り組むことができ、生きがいを持ちながら役割を果たせる環境づくりを進めました。

【指標・結果】

休養・こころ	出典	第3次策定時	目標値 (2023年度)	最新値	評価	確定
ストレスと上手につきあうことができる人の増加						
ストレスに対処できている人の割合	( 1 )	89.1%	90%以上	87.5%	評価せず ※1	○
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	( 1 )	27.4%	15%以下	24.1%	やや改善	○
豊かなコミュニケーションを築き、地域のつながりを強化						
地域の人たちとのつながりが強いと思う人の割合	( 1 )	26.5%	30%以上	24.1%	悪化	○
就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合	( 1 )	41.7% (43.7%) ※2	50%以上	46.2% (49.4%) ※2	改善	○
自殺死亡率の減少						
自殺死亡率（人口10万対）	( 2 )	14.9	平成29年の自殺死亡率を15%以上減少	18.0	悪化	

(1) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査

(2) 令和4年(2022年)人口動態統計

※1：現状値策定時の算出方法と異なるため参考する。

※2：( )内の数値は現状値策定時の算出方法を見直し集計したもの（職業不明・無回答で何らかの地域活動を実施している人数を追加）

【課題の方向性】

● 市民アンケート調査結果より

- 睡眠による休養を十分にとれていない人の割合、就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合は改善傾向にあるが、目標値に到達していない

## (4) 喫煙・飲酒

### 【市民の行動目標】

- 喫煙の健康への影響を理解し、受動喫煙を防止しよう
- 卒煙（禁煙）にチャレンジしよう
- 節度ある適度な飲酒を心がけよう

### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	子どもの吸わない・飲まない意識を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たばこやアルコールの害について理解する</li> <li>・たばこの煙に近づかない</li> <li>・たばこは吸わない</li> <li>・アルコールは飲まない</li> </ul>
成人期	喫煙・アルコールによる健康への影響を知り、生活習慣病の発症予防・重症化予防ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙、受動喫煙やアルコールが及ぼす健康への影響を知る</li> <li>・COPD について理解する</li> </ul>
高齢期		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非喫煙者（特に未成年や妊婦など）にたばこの煙を吸わせないよう、公共の場所では喫煙しない</li> <li>・卒煙（禁煙）にチャレンジする</li> <li>・アルコールは適量を心がける</li> </ul>

### 【行政の取組】

- 望まない受動喫煙が生じないよう、多数の市民が利用する施設において健康増進法に基づく受動喫煙対策を推進しました。
- 職場の受動喫煙対策については、企業における取組の促進を図りました。
- 喫煙者に対し禁煙方法等を情報提供するとともに、医療機関や薬剤師会等との連携により、禁煙外来や禁煙支援薬局の情報を発信しました。
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）と喫煙との関係について情報を発信しました。
- 喫煙歴が長いなどのハイリスク者に対しては、専門医療機関を紹介しました。
- 未成年者の喫煙や飲酒を防止するため、学校教育と連携した普及啓発を行いました。
- アルコールの適正量に関する普及とアルコール依存症などの相談体制について情報を発信しました。



【指標・結果】

喫煙・飲酒		出典	第3次 策定時	目標値 (2023年度)	最新値	評価	確定
喫煙による健康被害を理解する人の増加							
慢性閉塞性肺疾患（COPD）の認知		(1)	27.2%	60%以上	21.4%	悪化	○
たばこの煙を吸わない人の増加							
喫煙率（20歳以上）	男性	(1)	25.6%	20%以下	21.0%	改善	○
	女性	(1)	7.0%	5%以下	9.5%	悪化	○
受動喫煙の機会を有する人の割合	行政機関	(1)	4.6%	0%	2.9%	やや改善	○
	職場	(1)	32.9%	20%以下	20.8%	改善	○
	家庭	(1)	22.1%	10%以下	13.4%	改善	○
	飲食店	(1)	42.0%	25%以下	18.9%	目標達成	○
生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の減少							
1日当たりの純アルコール摂取量が基準以上の人の割合	男性（40g以上）	(1)	16.3%	13.5%以下	17.4%	悪化	○
	女性（20g以上）	(1)	9.5%	7%以下	9.5%	不変	○

(1) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査

【課題の方向性】

● 市民アンケート調査結果より

- 喫煙率/受動喫煙の機会は改善傾向にあるが、目標値には到達していない

## (5) 歯・口腔の健康

### 【市民の行動目標】

- 正しい歯みがきや歯間部清掃の習慣を身につけよう
- よくかんで食べる習慣を身につけよう

### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	口腔機能の健全な育成適切な 歯科保健行動の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくかんで食べる</li> <li>・歯間部清掃用具による歯間部清掃をする</li> <li>・歯の萌出時期をとらえてフッ化物を利用する</li> </ul>
成人期	歯と口についての疾病予防歯科 口腔疾患に関連する全身疾患の 予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯間部清掃用具による歯間部清掃をする</li> <li>・禁煙する</li> <li>・定期的な健診を受け、かかりつけ歯科医を活用する</li> </ul>
高齢期	口腔機能の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な健診を受け、かかりつけ歯科医を活用する</li> <li>・歯を失っても入れ歯などの補綴物により、よくかめる状態を維持する</li> <li>・口腔機能向上関連事業に参加する</li> </ul>

### 【行政の取組】

- 歯科保健行動の定着のため、各世代の特性を踏まえ、個人、家族への支援のほか、園・学校や地域に対しても普及啓発を進めました。
- 2歳児歯科健診を開始したほか、フッ化物洗口を実施する園・学校を増やすなど、効果的にむし歯予防ができる環境づくりを進めました。
- 成人期における歯周病予防の取組を進めました。
- 介護者や障がい者の関係施設に対し、歯と口腔のケアの方法について知識の普及啓発を進めました。
- 高齢期の滑舌の低下や食べこぼし、かめない食品の増加、わずかなむせなどがみられる、オーラルフレイル（口腔機能の虚弱）を予防し、生涯自分の口で食べることや話すことを楽しめるよう、「お口の体操」や「唾液腺マッサージ」など口腔機能の維持・向上に関する環境づくりを推進しました。

【指標・結果】

歯・口腔の健康	出典	第3次 策定時	目標値 (2023年度)	最新値	評価	確定
幼児期・学齢期のう蝕のない人の増加						
3歳児でむし歯（乳歯むし歯）がない人の割合	(1)	90.2%	90%以上	94.0%	目標達成	
12歳児（中学校1年生）の一人平均むし歯本数	(2)	0.44本	0.36本以下	0.24本	目標達成	
口腔機能の維持向上						
60歳代における咀嚼良好者の割合	(3)	74.2%	80%以上	79.7%	改善	○
歯の喪失防止						
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合	(3)	53.8%	65%以上	62.6%	改善	○
歯間部清掃用具を使用している人の割合	(3)	57.6%	65%以上	65.9%	目標達成	○
80歳で20歯以上の自分の歯を有する人（8020達成者）の割合	(4)	58.6%	60%以上	64.7%	目標達成	
40歳で進行した歯周炎を有する人の割合	(5)	61.3%	50%以下	56.0%	やや改善	

(1) 令和4年(2022年)度3歳児歯科健診事業結果

(2) 令和4年(2022年)度新潟市学校保健統計

(3) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査

(4) 令和5年(2023年)度市民口腔保健調査

(5) 令和4年(2022年)度新潟市成人歯科健診結果

【課題の方向性】

- 市民アンケート調査結果より
  - 全体的に改善傾向にある

## (6) 健康管理

### 【市民の行動目標】

- 健康診断やがん検診を受け、健康診断の結果を生活習慣に生かそう
- 必要な治療を継続して受けよう
- フレイル・認知症の予防に取り組もう

### 【世代別の取組の方向性・視点】

世代	方向性・視点	具体的な行動
乳幼児期～思春期	正しい生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と命の大切さについて学ぶ</li> <li>・生活習慣病に対する正しい知識を持つ</li> </ul>
成人期	疾病の早期発見・早期治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に健康診断を受ける</li> <li>・自覚症状を感じたり、精密検査が必要となった場合は、早期に医療機関を受診する</li> <li>・必要な治療を適切に受ける</li> </ul>
高齢期	疾病の早期発見・早期治療、自分にあった健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に健康診断を受ける</li> <li>・自覚症状を感じたり、精密検査が必要となった場合は、早期に医療機関を受診する</li> <li>・必要な治療を適切に受ける</li> <li>・栄養、身体活動、社会参加などがフレイル・認知症の予防となることを理解し、取り組む</li> </ul>

### 【行政の取組】

- がんや糖尿病などの生活習慣病の理解や早期発見・早期治療の重要性について普及啓発を行いました。また、市民ニーズに沿った受診しやすい体制を整備し、健（検）診未受診者への効果的な受診勧奨と意識啓発を行いました。
- 未治療者や治療中断者などの受診勧奨や保健指導を行い、治療を継続できるよう支援しました。
- 地域の健康課題の見える化により、地域と健康課題を共有し課題解決に向けた取組を進めました。
- 企業等の健康経営や健康づくりを推進し、関係機関と連携した取組を進めました。
- 健康問題を抱える人に適切な支援ができるよう、医療機関などと連携し、関係機関・団体などのネットワークについての情報提供を行いました。
- 高齢者の低栄養、運動機能、口腔機能、認知機能の低下などのフレイル予防や認知症予防について普及啓発し、関係機関と連携を図りながら取組を推進しました。

【指標・結果】

健康管理		出典	第3次 策定時	目標値 (2023年度)	最新値	評価	確定
特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上							
新潟市国民健康保険加入者の特定健康診査受診率		(1)	35.4%	60%以上	38.0%	やや改善	○
新潟市国民健康保険加入者の特定保健指導実施率		(1)	20.0%	60%以上	15.7%	悪化	○
がん検診の受診率向上							
過去1年間のがん 検診の受診状況 (40～69歳 子宮頸がん検診の み20～69歳)	胃がん	(2)	43.1%	50%以上	52.8%	目標達成	○
	肺がん	(2)	35.4%	50%以上	53.2%	目標達成	○
	大腸がん	(2)	36.3%	50%以上	49.4%	改善	○
	子宮頸がん	(2)	41.2%	50%以上	43.0%	やや改善	○
	乳がん	(2)	44.8%	50%以上	50.9%	目標達成	○
生活習慣病の発症予防・重症化予防							
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合		(1)	28.6%	23%以下	31.9%	悪化	
受診勧奨判定値域 の人の割合	血圧	(3)	23.6%	減少	27.3%	未達成	
	脂質代謝 (LDLコレステロール)	(3)	23.6%	減少	26.9%	未達成	
	血糖 (HbA1c)	(3)	8.9%	減少	9.4%	未達成	
メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組をしている人の割合		(2)	37.4%	50%以上	40.0%	やや改善	○
フレイル・認知症の予防							
低体重者の割合 65歳以上 (BMI20以下) (再掲)		(2)	22.4%	22%以下	23.2%	悪化	○
就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合 (再掲)		(2)	41.7% (43.7%) ※1	50%以上	46.2% (49.4%) ※1	改善	○
認知症予防出前講座 【単位：実施回数 (回/年)】		(4)	300※2	500以上 ※3	1,026	目標達成	

(1) 令和4年(2022年)度新潟市国民健康保険特定健康診査法定報告 (速報値)

(2) 令和5年(2023年)度新潟市民の健康づくりに関する調査 (3) 令和3年(2021年)度新潟市国民健康保険特定健康診査結果

(4) 令和4年(2022年)度認知症予防出前講座実施回数

※1：( )内の数値は現状値策定時の算出方法を見直し集計したもの(職業不明・無回答で何らかの地域活動を実施している人数を追加)

※2：平成30年(2018年)度目標値 ※3：平成32年度(令和2年(2020年)度)目標値

【課題の方向性】

● 市民アンケート調査結果より

- がん検診の受診率は向上している。